

復興へガンバロウ！

遠地の福岡県から大きな助っ人



炊き出しのスタッフ

気仙市民復興連絡会では、4月11日から陸前高田市広田町の避難所（慈恩寺・喜多公民館）で炊き出しを行ってきた。この炊き出しは、NPO法人愛知ネットが中心となって、気仙の市民活動団体の「もさばロハス」「音声訳オープンハート」「美杉会」「おはなしころりん」「ITネットワーク陸前高田」「夢ネット大船渡」の会員が協力して行っている。その炊き出しへ福岡県から22時間もかけて、何かお役に立ちたいと炊き出しの中心になっている方がいる。

原健吾さん（42才）と息子さんの和克（かずよし）さん

原さんは福岡県筑紫野市で瓦業を営んでいる方で、阪神大震災の際に、復興作業を行い、現在の瓦業の基礎が出来たので、その恩返しをしたいと考え、福岡のNPO等で東北にボランティアで行く方を探したがなく、愛知ネットが救援物資の受け入れを求めているので早速連絡を行い、米・缶詰・歯ブラシなど沢山の救援物資を積んで大船渡市へ4月9日到着した。息子さんの和克さんが飲食関係の仕事であったこともあり、11日からの炊き出しの中心的役割を果たしている。あと数日大船渡で支援したいと話していた。



広田町喜多公民館

読み聞かせ 各地で開催

読み聞かせボランティアおはなしころりん（江刺由紀子代表）は、3月25日から避難所を回り、子どもたちへ読み聞かせを行っている。これまで大船渡地区公民館、大船渡中学校、大船渡北小学校、盛町のリアスホール、末崎町の碁石コミュニティセンター、末崎小学校、末崎中学校、赤崎漁村センター、さらに盛と猪川の学童保育で行った。4月14日は炊き出し場所の広田町の喜多公民館で行い、幼児の方々と楽しいひと時を過ごした。



災害FMラジオ局のボランティアへオープンハートの会員も登録して協力している。けせん・まちの保健室も避難者の保健指導に飛び

回っているなど、各市民団体は各地で何らかの支援活動を行っている。

15日の昼食炊き出し「赤崎漁村センター」

4月15日は赤崎町の赤崎漁村センターへ昼食の炊き出しです。大災害を受けた赤崎町の中心地、小学校も中学校も被災した場所です。メニューは温かい「カレーうどん」です。

15日に気仙市民復興連絡会は、今後の支援活動拠点づくりや活動に使う自動車などの支援を受けるため、郵便事業会社へ「年賀寄附金配分申請書」を提出した。

復興支援は長期になるだけに、活動拠点の事務所を設営して行う予定です。



赤崎漁村センターから見る被災地